

モモせん定枝チップのマルチ施用がモモ樹の生育に及ぼす影響

福島県果樹試験場栽培部
平成16年度試験研究成績書

1 部門名

果樹－モモ－資源利用
分類コード 04-02-65000000

2 担当者

額田光彦・星 保宜

3 要 旨

園外で2週間以上野積みにしたモモせん定枝チップをモモ若木にマルチ資材として約2.5kg/m²を平成14年より連年施用し、樹体の生育や土壌の化学性に及ぼす影響を検討した。

- (1) 処理1年目は、チップマルチ区で主幹の肥大量が劣る傾向がみられたが、2年目以降は生育の低下はみられなかった。
- (2) チップマルチ施用後約3年を経過した土壌は、深さ0～5cmで有機炭素、全窒素、有効態リン酸、交換性加里含量が高まり、特に交換性加里は深さ5～10cmでも多くなった。また、モモ樹の葉中加里含量もチップマルチ区で有意に高かった。マルチ下層部のせん定枝チップのC/N比は24.6であり、腐熟化が進んでいた。
- (3) 土壌が比較的乾燥していた4月26日に土壌の含水比を調査した結果、チップマルチ区は30cm深まで有意に高く、土壌の乾燥を抑制した。

以上のことから、モモせん定枝チップを園外で2週間以上野積みにすれば2.5kg/m²程度のマルチ施用ではモモ樹の生育に及ぼす影響は小さいものと推察された。ただし、土壌中の養分バランスがくずれ生理障害等が発生することも危惧されるので、多量に施用する場合は注意が必要である。

4 その他の資料等

なし